

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	江戸川区西小岩 2-10-7
園名	AIAI NURSERY 西小岩

1. 活動のテーマ

<テーマ>

探究（色・形・味・量感・野菜や魚などの仕組みなどの変化）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

玄関エントランスに毎月献立を掲示しているが、登降園時親子でメニューの確認、献立を楽しみにする会話が多く、また降園時にはその日に利用した野菜の切れ端を置き親子で感触や臭いなどを体感するコーナーを設置するとさらに親子で食に対する会話が增え、野菜の名前を覚えるなど食に対する知識が增えていった。

知識が增えるとともに食育時、給食時に「あれ？これなにかな？」という発言や、食べ物に関する絵本や辞典を見る事、保育者や保護者に聞いたりする事、ままごとや野菜で遊んだりする姿が多く見られるようになった。

この事が単なる「遊び」「気付き」ととどまらず、「ねらい」や「意図」を持って野菜が育つ変化、調理による多くの変化（色・形・数・臭い・味・構成）を探究する力、「意欲」「粘り強さ」「推察力」「観察力」「思考力」の育成の為、思考教育プログラムを実施。また自分で絵本や辞典で「読める」事による知識への意欲を育てる為プリント教材を知識教育も実施した。

【導入したプログラム】

・思考教育プログラム「1Qパズル」

「あーでもない、こーでもない」と試行錯誤する能力と習慣をつくるプログラム

・運動プログラム「Break it Kids」

子どもたちが映像を通して壮大な冒険を体験し、さまざまな問題をクリアしていくプログラム。子どもたちの自己調整をサポートし感覚統合を整える。

・知識教育プログラム「KOKORO lingua」「プリント教材（ひらがな等）

「子どもが子どもに教える」というアプローチ法、子どもの感情に着目して作られたプログラム。感情と記憶が、密接に関係していることが近年の研究で明らかにされている。

2. 活動スケジュール

■ 4月～ 3・4・5歳児クラス 思考教育（1Qパズル/Break it Kids）と知識教育（平仮名の読み書き）を、5歳児クラスは KOKORO リンガ（英語プログラム）も子ども達の興味関心に合わせ実施。興味がない児は自分の好きな遊びが出来るよう環境設定。

■ 5月～ 3・4・5歳児クラス 食育計画に沿って（栽培・調理・クイズ遊び等）各クラス月に1度グループ分けを行い実施（水やり/調理/調べる等）。食育中に出た「気付き」「発言」を拾っていく。また具体化出来るよう「問い」を投げかける。

実施内容は調理職員がドキュメンテーションを作成し各クラス保育室前に掲示し保護者に共有。月に1度まとめて園のブログにもアップ。

■ 6月～ 玄関エントランスに日々の給食の食材の切れ端を設置。

また園や家庭でどんな発言、会話が生まれたかアンケート実施。

■ 1月～ お正月料理（お寿司・お刺身など）を食べた経験から魚の解体（人形）を利用し、お寿司やお刺身がどのように作られていくか体験出来るよう環境設定。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

■思考教育

【1Q パズル】

動画・テキスト・教材を準備し、年齢に応じレベルを分け教材を準備。

テキスト：イメージ化能力、空間把握能力、数量感覚などが育つよう段階に合わせた 30 級~10 級までのテキストを準備。

教材内容：テキストで利用する積み木/図形プレート/紐通し 12 セット

動画：イメージ化能力、空間把握能力、数量感覚などが育つよう段階に合わせた 30 級~10 級までの動画を準備。

【Break it Kids】

運動動画：子どもたちが映像を通して壮大な冒険を体験し、さまざまな問題をクリアしていくプログラムであり、子どもたちの自己調整をサポートする動画を準備。様々な冒険が出来るようシーズン 1~4 の動画を準備。冒険がより楽しめるよう大型プロジェクター使用。

■知識教育

【KOKORO リンガ】

ネイティブの子どもたちが作ったテーマごとの学習ビデオ、ネイティブの子ども達が海外の感性で音や色、遊びを通し子ども達に英語を伝えていく。

【プリント教材】

平仮名やカタカナ、アルファベットの教材を準備。興味関心に応じて実施。

■食育環境

・玄関エントランスに、「色・形・匂い・手触り」など確認出来るよう毎日給食で利用した野菜の切れ端を設置。日々自分達が食べている給食にどんな野菜が入っているか、調理前はどのような匂いや手触りか、また変化に気付ける環境を設定。

・屋上で野菜の栽培、収穫が体験できるようプランター設置。
また子ども達の発言から「やってみたい」を保育士の「問い」にて具体化した環境設定。
・知識量が増えるよう食に関する絵本を江戸川図書館より毎月合計 50 冊クラス毎に貸出を受ける（保育者が図書館に行き毎月選定）

・魚の解体（命を頂く）見学、魚の人形を利用し解体出来るよう購入予定。
・野菜の生長、調理する事の変化を写真に撮り、ドキュメンテーションで確認、振り返るができるよう掲示。

4. 探究活動の実践

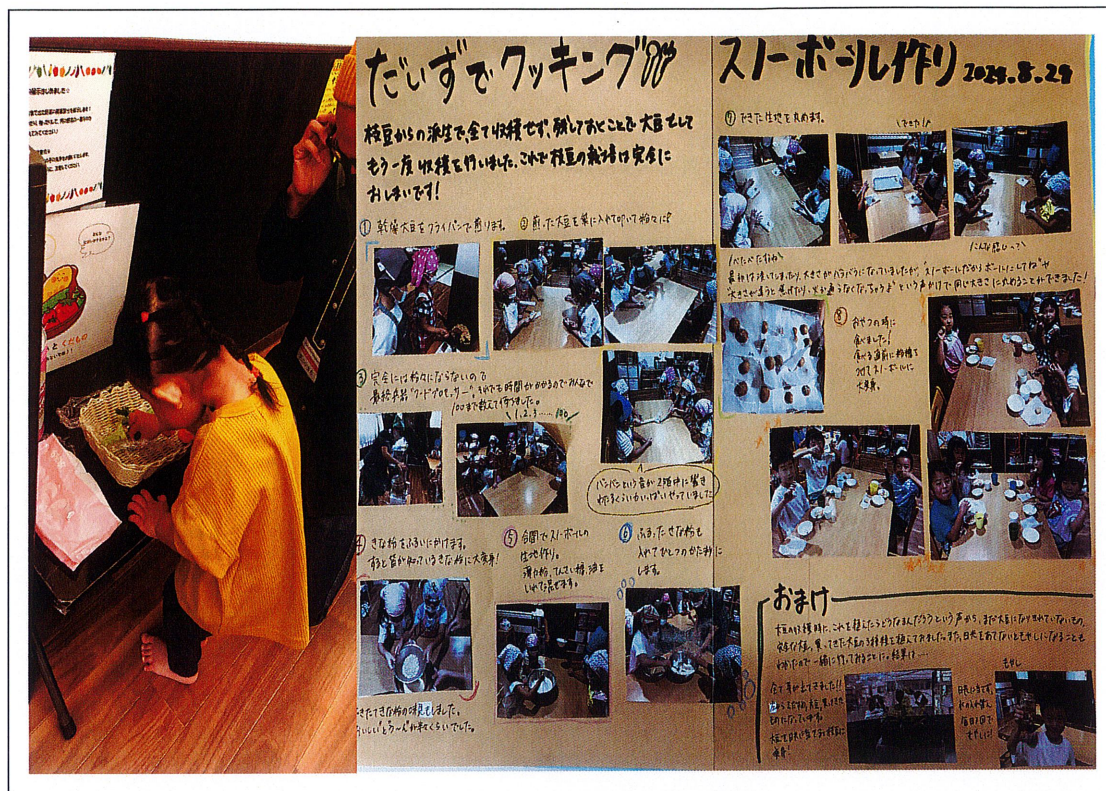
<活動の内容>

玄関エントランスに献立を掲示し、最初は「おいしそうだ」「すきなメニューだ」と楽しみにする会話のみであったが、その日利用した食材（野菜）を日々設置すると最初は「見る」だけであったが、次第に「触る」に移行し、日々触る事で「形（薄い、厚い、固い、柔らかい）」の違いに気付き、また野菜ごとに「匂い」が違う事にも気付く発言が増えていった。月々の食育を実施する際導入として食育絵本の読み聞かせや野菜の栽培等取り入れると、野菜がどのような形から育つとどのように変わり、そして自分達の口に入るのか？について驚きと共に「どうして？」と探究心が芽生え、保育者や保護者への質問も増え、また辞典などで知った事、給食ではどのような味で何に入っていたのかなど嬉しそうに伝える事も増えていった。こどもの達の発言をひろい、問いにより具体化し、育てた枝豆の一部を収穫せずそのままにし「大豆」に変化する事、辞典で調べると「日光」が当たらないともやしになる事に気付き保育室で光を当てず育ててもやしになる変化、また大豆を粉上にする「きな粉」になる事変化を実際に体感できる食育も実施した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

こども達の「どうして？」「こうしたらどうなる？」などの探究心から生まれる声を食育中にひろい、さらに子ども達同士で探究できるような問いを行った。例えば大豆を収穫する際にこども達から「収穫した大豆を植えたらどうなるんだろう？」との発言を受け、「辞典などで調べる」「実際植えてみる」など様々な意見が出し合えるよう場をもうけ、「じゃ何があったら出来るかな？」と問い具体化、またその変化を日々体感できるよう牛乳パックで作ったプランターで育てられるよう環境を整えた。日光を当てない事で「もやし」になった事から「日光」が植物に与える影響についての興味関心が高まり、辞典で調たり、土の中になる「お芋」などはどうなるんだろう？との新たな探究心に繋がっていった。またその「発言」「結果」など写真付きのドキュメンテーションでクラス前に掲示すると、変化を写真で見て「ここから変わっちゃったね」との会話も見られ子ども達の振り返りにも繋がった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

献立の掲示、野菜の展示、食育の実施から得られた子ども達の「発言」、またアンケートを通し家庭での発言も組み入れる事で子ども達の発想、今疑問に思っている事、また興味関心を把握する事から始めたが、単なる「遊び」一時的な「興味」にとどまらず「ねらいや意図」を持って「探究する」力に繋げる為「どうしたら出来るかな？」など問いを投げかけ環境をデザインしていったが、問いを投げかける度に子ども達の反応から基礎となる「知識」と食育による「経験」、またその「知識」と「経験」を繋げ考える力、思考力が土台として必要だと感じた。思考教育を取り入れた事で「あーでもない」「こーでもない」と考える発言が月を追うごとに増えていき、枝豆の栽培から、「枝豆」「大豆」「きな粉」「もやし」と多方向に子ども達の探究心の広がりに応じて環境を設定でき食物の変化を体感する事が出来良かった。今後も「思考力」という土台の育成、子ども達の「発言」を具体化させる「問い」に重点を置き食育活動を継続させていきたい。またドキュメンテーションを作成し、親子で見る事が出来る環境を作った事で、保育者だけでなく、子ども達自身も振り返りにも繋がり良かった。

